



なんとなく ほっとする
そんなふるさと

次の世代を支える郷づくり

～豊川地区つろうて子育て推進協議会の取組み～

豊川地区つろうて子育て推進協議会





豊川地区の概要

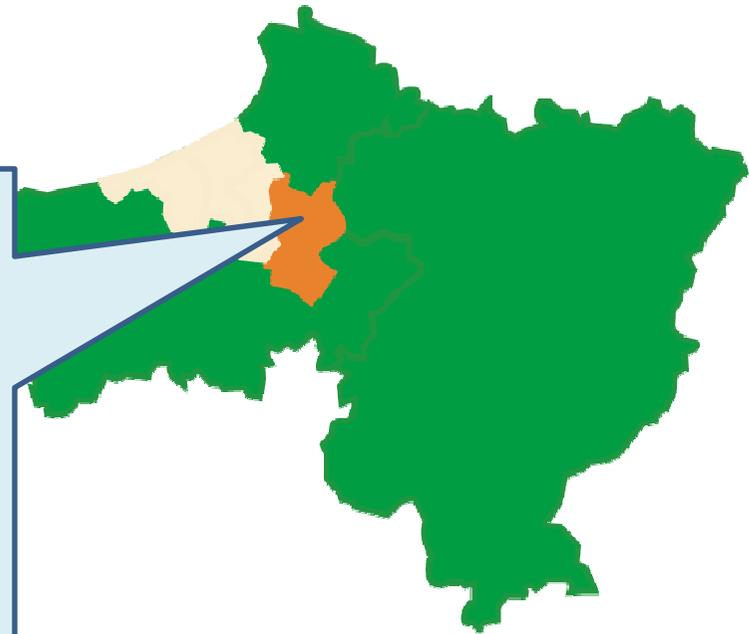
	世帯数	人口	男	女
豊川地区	380	959	465	494

益田市住民基本台帳（平成26年12月末現在）

豊川小学校 児童数46名

豊川保育園 園児数38名

つ
(放



豊川で育つ



子ども見守り活動



あいさつ運動



通学合宿







教育協働化事業











協働化事業の実施状況(H25年度)

学校支援ボランティア数

延べ人数 1,350人 (実数 65名)

活動内容	年間活動日数
学習支援活動	25 日
登下校安全指導	200 日
学校行事	1 日
その他	3 日

読み語りボランティア



シニア楽校



プール当番

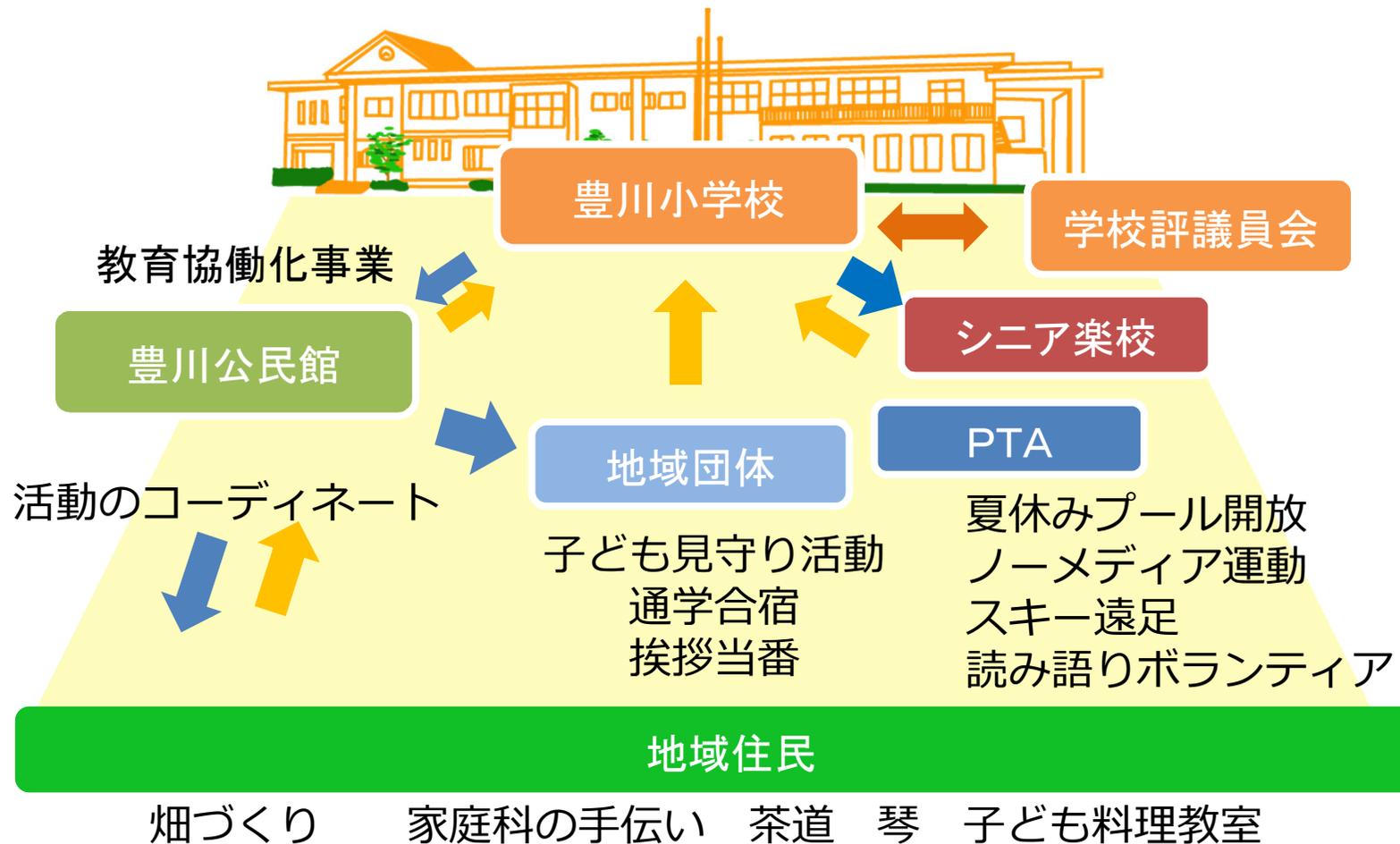


スキー遠足





地域が子ども達と小学校を支えてきた

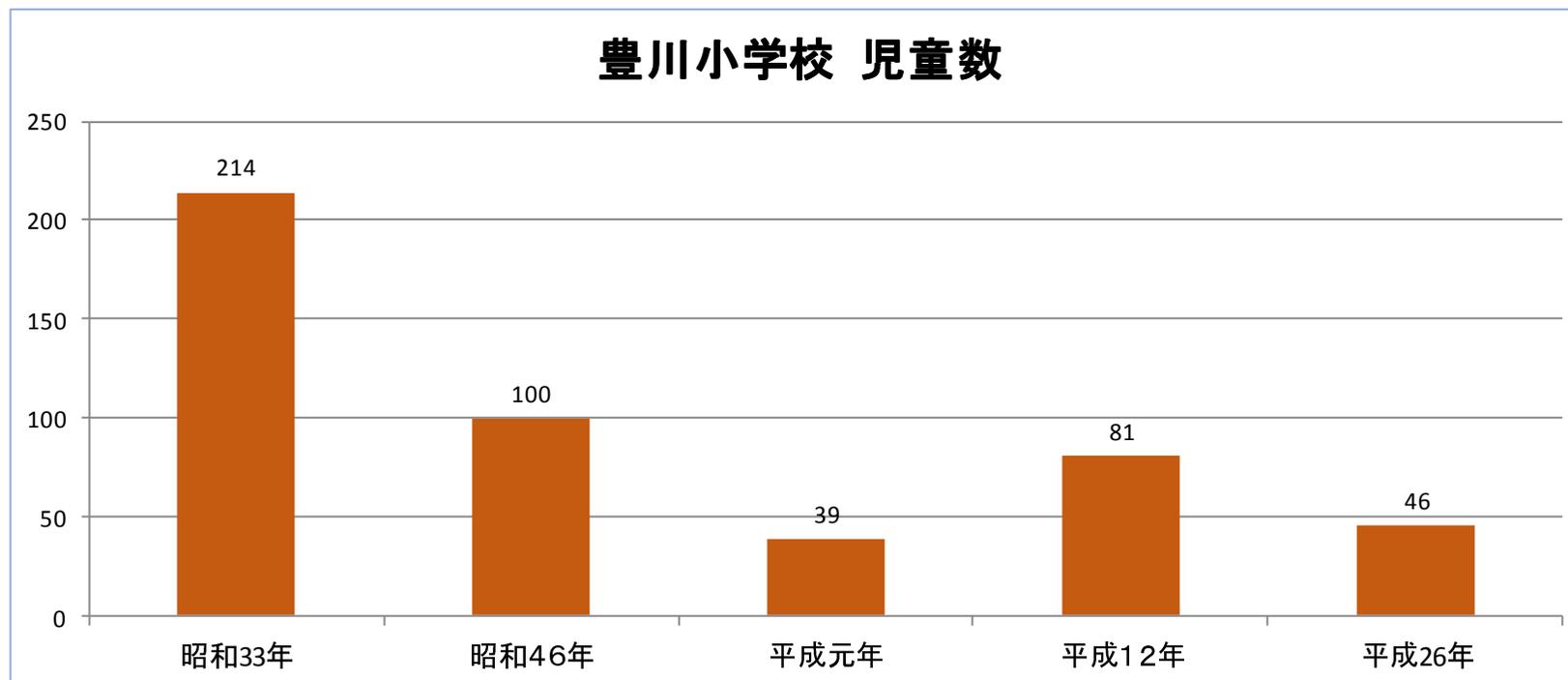




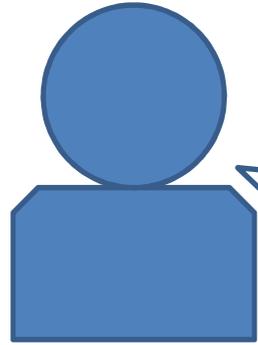
なんとなく ほっとする
そんぷるさと

小学校児童数の変遷

■ 現在は児童数46名。

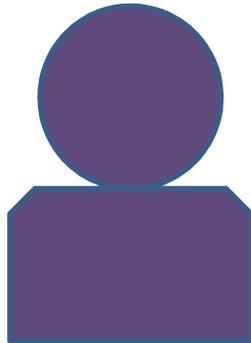
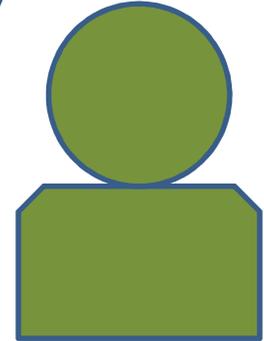


《地域の方々の声》



最近の親は子どもとしっかり遊んでらん。子どもも挨拶をあまりせんくなっとる。

最近は、地区に子どもがおらんけえ子どもも学校のこともよ一分からん。



地域の人に関わってくれるのを当たり前と思っとる親が増えてきたような気がする。



なんとなく ほっとする
そんなふるさと

つろうて子育て推進協議会

つろうて＝連れ立って

【設置目的】

子どもを取り巻く課題の共有と今後の対策を考える

豊川地区つろうて子育て推進協議会

益田東中学校

P T A

豊川小学校

P T A

豊川保育園

保護者会

益田東中学校

豊川地区
放課後児童クラブ

豊川小学校

豊川保育園

豊川地区
青少年育成市民会議

豊川地区

民生児童委員

豊川地区

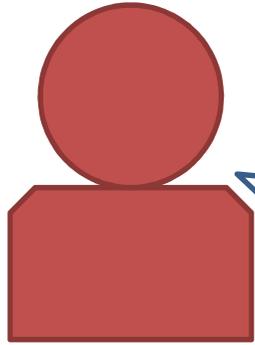
社会福祉協議会

豊川地区連合自治会

豊川公民館
豊川地区振興センター

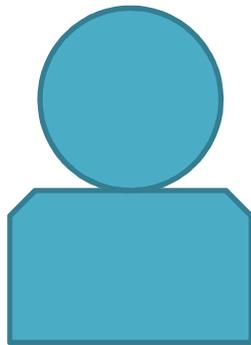
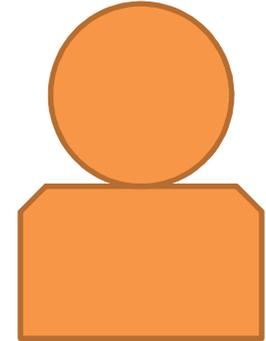


《現状について》



保護者数の減少で、同じやり方では、これまで通りのPTA活動は難しくなっています。

地区に子どもがいないので親子や学校の状況もだんだん分からなくなっている。



地域の団体も高齢化して、今後の活動の継続が難しくなっているものもある。

今後の課題

- 支え手となる地域団体の高齢化
- 将来的な児童数の減少
- 予測される地域コミュニティにおける
リーダーの代替わり
- 親と地域の関係の希薄化

1. 「地域 × 親 × 学校」の新たな仕組みを作ることが必要

⇒ 小学校をコミュニティースクールに

2. 地域で中学生や高校生の居場所や役割を与えることが必要

⇒ 中高生による地域活動の場づくりを

3. 「子ども × 地域」となる学びの場が作りたい

⇒ 地域に寺子屋を創設

1. 小学校を コミュニティスクールに

学校運営協議会の設立へ

豊川地区つろうて子育て推進協議会

学校運営協議会

益田東中学校
PTA

豊川小学校
PTA

豊川保育園
保護者会

益田東中学校

豊川地区
放課後児童クラブ

豊川小学校

豊川保育園

豊川地区
青少年育成市民会議

豊川地区
民生児童委員

豊川地区
社会福祉協議会

豊川地区連合自治会

豊川公民館
豊川地区振興センター



PTA組織

執行部

PTA会員数 35名
教職員数 14名
合計 49名

地域連携係

研修部

PTA研修会
スキー教室
親子ふれあい活動

保体部

ノーメディアカード
学校保健委員会

生活環境部

再生資源回収
朝の挨拶当番
ベルマーク回収

2. 中高生による 地域活動の場づくりを

子ども地域活動モデルづくり事業

現状と課題

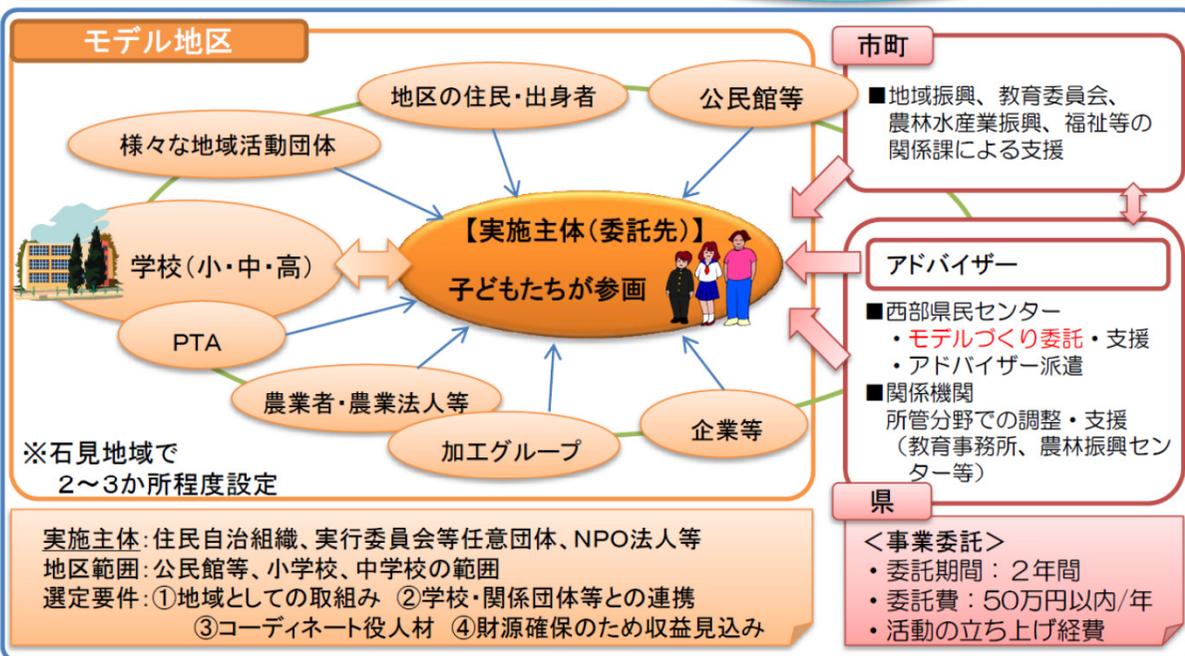
- 地域活動の高齢化、担い手不足、硬直化。
世代間の繋がり希薄化、次世代への継承困難。
- 学校統合で地域で子どもの姿が見えなくなる。
進学で都市部に出て、帰ってこない・・・
- 学校教育での学び・体験（ふるさと教育、キャリア教育等）の実践の場が必要では？

どんなモデル？

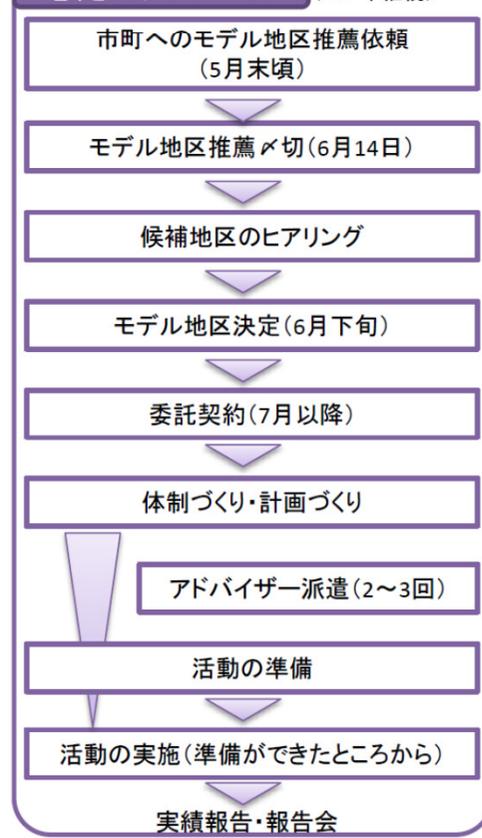
- 子どもたちが主体性を持って、継続的に地域活動
- 地域が活動の場をつくり、サポート
- 収益活動により活動の財源確保

目的・効果

- 地域コミュニティ活動の活性化
 - ・やりがい、担い手確保（親子）、世代継承
 - ・CBのきっかけ ・地域資源の活用
- 地域の将来を担う子どもたちの育成
 - 郷土愛、地域への誇り、職業観、課題解決能力、実践力、地域貢献、生きる力



想定スケジュール (2か年継続)



活動例(先進事例)

- ◇**釈迦内サンフラワーPJ**(秋田県大館市釈迦内地区).....地区まちづくり協議会が運営主体となり、小学校を中心に町中の人々が参加し、「ひまわり」を栽培。その種から出来る油を加工、販売。あらゆる団体、企業、個人が協力体制を敷き、ひまわりを核に地域を活性化。
- ◇**たまゆメンバーズクラブ**(松江市玉湯町).....中学生時代に町の文化祭の運営に関わった学生が卒業後にボランティアグループを結成。月1回のミーティングを行い地域でのイベントを企画。文化祭での模擬店の収益は活動資金に。



名称

『とよかわっしょい!!』

- ・自分たちで豊川地区を盛り上げたい！
- ・「わっ！」と驚くような活動をしていこう！
- ・地域の輪・友達との和を大切にしよう！

平成26年度の活動

○地区イベントへの参画(企画・出展)

- ・各イベントに出店し、活動資金の確保につなげる。

○地域課題の解決につながる活動

- ・グループワークで出し合った意見の中から、取り組める活動を実施していく。









校長先生もわっしょい！！



教頭先生もわっしょい！！



保育士さんもわっしょい！！







江津で報告会 子ども地域活動 モデルづくり事業

中学生ら生き生き発表



活動内容を発表する「とよかわっしょい!!」のメンバー

この日の報告会では、県西部のモデル地区に選定された浜田市金城地区、益田市豊川地区、大田市中央ブロック、吉賀町蔵木地区の関係者がそれぞれ、2年間の取り組みを披露した。

益田市豊川地区の中学生25人が参加するグループ「とよかわっしょい!!」は、手作りポップコーンなどを地域のイベントで売って活動資金を確保したり、保育園や放課後児童クラブで本の読み聞かせをしたりしたことを紹介。生徒たちは「活動を通じて自ら考えて動けるようになり、地域の大人との触れ合いも増えた」と成果を語った。

県東部のモデル地区となっている安来市島田地区、同市広瀬町奥田原地区、雲南市吉田・田井・民谷地区の取り組み状況についても、県の担当者が説明した。

地域の将来を担う子どもの育成とコミュニケーション活動の活性化を目的に県が進める「子ども地域活動モデルづくり事業」で、県西部での取り組みの報告会が17日、江津市嘉久志町の地場産業振興センターであった。モデル地区の関係者が活動成果などを発表し、

市民ら約90人が耳を傾けた。同事業は県西部で2013年度から4カ所を、県東部では14年度から3カ所を各2年間、モデル地区に指定。各地区は県から財政支援を受け、中高生らが主体性を持って継続的に地域活動をする仕組みを構築す



- 活動の際には
- 手を出さない
 - 口を出さない
 - 子どもの意見を
大事にする

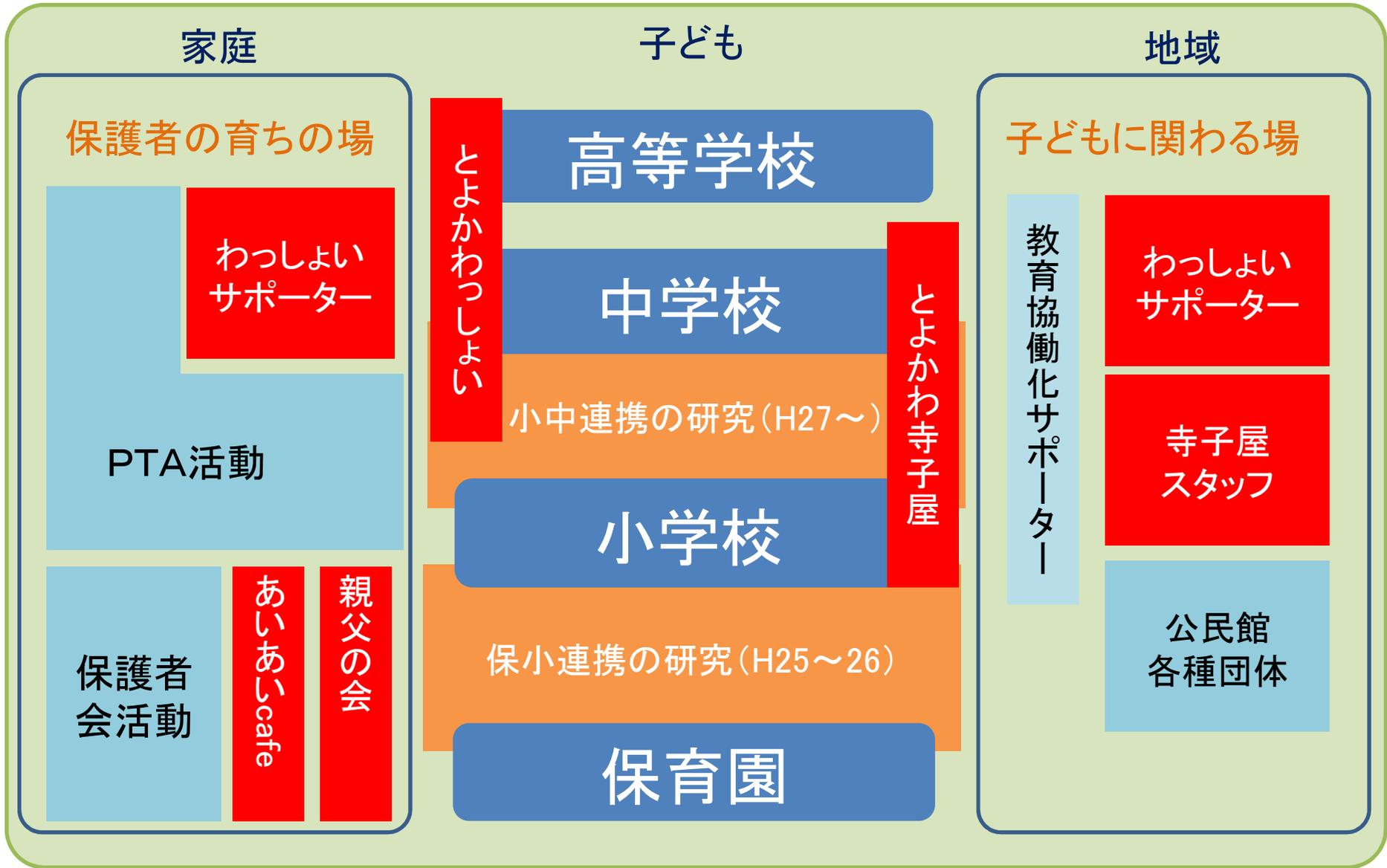
活動を支える大人の組織を結成！
「わっしょいサポーター」を
中学生のPTAを中心に組織

3. 地域の寺子屋を創設

とよかわ寺子屋の開設







協議会の活動を通して

- 子どもに関する多くの活動機会を作っていくことが大切。
- 子育て家庭への理解が広がることで、家庭教育を支えることに繋がる。
- 年代に応じた必要な支援を、地域全体で考えていくことに大きな意味がある。
- 地域の次の担い手が地域の将来を考える機会に繋げていきたい。